

会津の思い出記録

大熊中仮設校舎「アーカイ部」最後の生徒3人



撮影されながらウオークラリーをする生徒ら

東京電力福島第一原発事故の影響で会津若松市に避難している大熊町の大熊中で四日、生徒の学習の様子や日常の表情を撮影して記録化する事業が始まった。来年四月以降に解体が決まった現在の仮設校舎の最後の卒業生で、全校生にも当たる三年生三人の姿を追い、会津若松市で学んだ記録として後世に伝える。

町で保存、後世へ伝承

映像作成には生徒自身も参加する。大熊中では今夏、部活動「アーカイ部」を設立し、三人全員が入部した。会津若松市で大熊の学校教育に携わった人物に生徒がインタビューし、その様子も映像に盛り込む予定だ。今

撮影初日、猪苗代町内でもウオークラリーが行われ、生徒が町内を巡る様子が撮影された。きょうだいいも仮設校舎に通っていたという東理このみさん(モ)は「映像は町民だけでなく、大熊を知らない人にも、先輩や自分たちが若松で過ごした日々を知ってもらえる手段になる。楽しい学校生活を記録していきたい」と話

後、大熊町の幼稚園、小も参加する。大熊中では今夏、部活動「アーカイ部」を設立し、三人全員が入部した。会津若松市で大熊の学校教育に携わった人物に生徒がインタビューし、その様子も映像に盛り込む予定だ。今

町教委は映像を、町内でも保存する予定。同中は原発事故の一月後に町役場出張所が置かれた会津若松市の旧会津学願高校舎の二階で学校を再開。二〇一三年四月

震災・原発事故

10年目のふくしま

町教委は二〇二二年(令和四)年に旧河東三小で小中九年制の義務教育学校を開校するのに伴い、同年三月末に大熊中、熊町、大野両小を休校とする。大熊中の在校生は現在三年生のみで、来春に入学生がない場合は大熊中のみ一年前倒して休校とする方針。